

目次

消えかける町	1
頭を使え	4
和菓子か洋菓子か	7
昭和荘崩壊	9
お知らせ	12

消えかける町



DSC \

自転車で目指す町が消えかけている。

青空が見えるのに雲が砂塵のように覆い、消されそうだ。

旅人には休憩できれば、そんな町でも砂漠のオアシスに見える。

町に着き、夕食を取れる所を探すが、コロナウイルスで飲み屋街、繁華街から人波が失せている。

規制を無視した営業の店を見かけるが、疑心暗鬼になりコロナが不安で入れない。

人影のない信号を救急車のサイレンだけが、けたたましく通り抜ける。

不安感の中で医療や防災関係の仕事に従事される方のご苦労には感謝するしか出来ない。

閉店の飲み屋から年配の常連客が時短営業だからと追い出されていた。

日頃からの付き合いで、もう一杯飲ましてくれと頼んでいるが、断られている。

「仕事帰りの一杯が仕事疲れを回復させ、明日の元気になる薬だ」と酔客は訴えている。

飲み屋の女将は丁寧に断り「明日お待ちしております」と酔客を手なずけている。

「働く喜びは何処に行ったんだ。儂には明日はない」と嘆き節に変わる。

「年寄には生きている喜びを感じるのは今しかない。この地はもう儂の住めるところじゃない」と酔客はわめく。

女将は笑いながら送り、暖簾をしまい込んだ。

酔客も笑みを浮かべ会話を楽しんでいるようだ。

「酒の媚薬に頼りすぎると怖いですよ」私はすれ違いざま会釈しながら言う。

酔客は「そうやな、生きている手ごたえを感じたい。生きるためには媚薬に溺れるしかない」

と笑い、去って行った。

ウイルスで人の流れが激変し、楽しみも減った。

余暇の楽しみ方は変わり、平和ボケから脱出を試みる歓楽街は砂漠の中で戦っていた。

(多重露出撮影で町並みと自転車を砂塵の雰囲気になりました)

頭を使え



DSC \

上司から要領ばかり使うな、もっと頭を使えと言われた。

自慢の固い頭を利用して頭突きで仕事をこなしているが最近では頭痛がひどい。

何事も仕事は大変、私なりに発想を変え、リモートワークでも使える要領を考えている。

要領良さを売って来た者に、今更しっかり仕事する事は無理だ。

会社は中身のある実力を積める仕事は下請け企業に任せている。

会社内では人事情報の早さだけが社員の関心の的だ。

その情報量が出世の価値を決めるのに、在宅ワークなどは活用出来ない。

世界経済や新技術開発、政治経済など難しい話題は上司たちに関心が薄い。

今更会社で仕事人間を増やし実績評価に変わるなら、要領良さを活かせる会社が変わるべきか悩む。

上層部は要領良さで成り上がった連中ばかりなので、今更改革は無理だろう。

もう仕事の喜びや達成感など何処かに忘れて久しい。

それを求めていた同僚たちは既に他社へ飛び立っている。

内部まで腐った組織を蘇生さすより、新しい会社を作るほうが効率的なのに、平和ボケが長過ぎて、トップは思考も決断も出来ないらしい。

会社を長く存続させるには、社員一人ひとりの自立心が必要で、他人の意見に流されるべきでない事は重々わかっているが、長い物には巻かれる事が常識になっている。

緊急事態宣言解除のニュースが入り、上層部はリモートワーク継続か出社かで議論しているようだ。

予想通り、リモートワークが廃止され、明日から全員会社へ出社することになった。

早速打合せと称する飲み会の出席確認名簿が回覧されて来た。

名簿にはお馴染みの名前が載っている。

やっぱり変わらない会社である。

「要領で仕事をするな」と叱ってくれた上司名は名簿には無く、他社へ引き抜かれて行くようだ。

その人の嫉妬な話題が酒の肴になりそうだ。

どうか私が定年まで会社が持ち堪えますように無言で祈った。

和菓子か洋菓子か



DSC \

コーヒーと一緒に何か甘いものが食べたい。

探していると妻が” きんつば” が有るわよと言う。

続いて、娘も” フロマージュ” を買って来ていると言う。

チーズケーキの一種らしい。

食べたい軍配は洋菓子に上がった。

この手の洋菓子は若者と同居していないと食べられない。

娘は友達との外食が減り、家庭食が増えて、おすそ分けに有り付ける。

食生活は便利になり、品数も増えている。

同じ食べ物なのに内容物が変化し、容器もお洒落になり高価になっている。

和菓子など、変化に逆らわず初代からの味や価格を頑固に守っている老舗が多い。

食べ物商売には今の環境激変は商売方法を変える変革期なのかも知れない。

夕刊が配達され目を通すと、緊急事態宣言が解除され、在宅ワークを辞める企業が増えているとの事。

日本の大企業や一流企業はやっぱり変わらないのか？

食べる前にカメラで物撮り、数枚押さえる。

昭和荘崩壊



DSC \

各ブログには日本の政治や経済に対し、国民の声として辛口コメントが増えてきた。

平和ボケした政治家や官僚に政治経済を任していると、国力がどんどん減速して、誰の目にも日本の行き詰まりが予想出来た。

このままでは日本がダメになると、若者たちが政府に訴えかけるデモを SNS で呼び掛けたようだ。

老いた私はそこまでの体力は失せ、興味本位にデモを見に行く事にした。

到着駅は民衆の熱気と興奮で蒸せ、すえた臭気が漂う。

改札口を出ると空が一気に開け、気分が少し楽になった。

大勢の人々が怒気と警笛に操られ、強制的に一方向に流されて行く。

行先の方向にある煤けた看板に”昭和荘方面”とわずかに読める。

歩く人々のすき間から見えるのは、警察官や機動隊員の無表情な顔の行列だけだ。

武装隊の顔は戦の前に舞う能面のように妖艶性が漂っている。

そんな状況下で十数分歩かされて、喧騒がこだまする囲われた広場に到着した。

後からドンドン人波が膨張し、人々の間隔が無く、身体が触れ合うようになり喧嘩も始まった。

主催者らしい男性が登壇し、この集まりの趣旨を述べ、全員の賛同を得た。

私も皆の拍手に導かれて拍手していた。

突然、周りを取り囲んでいた警察隊が「テロ容疑で全員逮捕する」と声がした。

一瞬、参加者は意味が理解出来ず沈黙になったが、徐々に喧騒が戻ると、人々はその囲いを破り一目散に逃げ出した。

私も恐くなり、人気の居ない方に一目散に駆けた。

誰かが大声を上げながら追って来たが、心臓が張り裂けそうになるが走り続けた。

何とか家にたどり着き、その日は疲れていたもので、ただただ眠った。

新聞やテレビのマスコミにはそのニュースは出なかったが、ブログ内では多数掲載されるが、徐々に話題は消されて行き、下火になった。

マスコミは自民党の政治腐敗が進行した結果、国民からの信頼が無くなり、他の合同政党が実権を握り、独裁的傾向が見始めていると言及している。

民主主義が後退し、やっと若者が政治に関心を持ち始めたのか、日本にもデモ活動が増えだした。

日々独裁者に操られた強権的な政策の足音が伝わって来る。

私はこの現実感平和ボケを貪っている昼寝の夢で終わって呉れと祈った。

お知らせ



DSC \

オリジナル写真は写真素材サイトの PIXTA と photolibrary で販売中です。

興味のある方は作者名 [みのすけ](#) で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご高覧ください。

消えかける町

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
